

# 鳥インフルに備え

## 松阪 初動態勢など確認

【松阪】高病原性の鳥インフルエンザの発生に備

え、松阪市高町の県松阪庁舎で十五日、松阪管内の県の機関や市町、JAなどで構成する「松阪地域高病原性鳥インフルエンザ対策会議」（本部長・東村良重松阪県民センター所長）主催の防疫研修と訓練があった。



炭酸ガスによる殺処分模擬訓練Ⅱ松阪市高町の県松阪庁舎で

鳥インフルエンザを運んでくるとされる、渡り鳥の本格的な飛来シーズンを前に、初動態勢などを再確認しようと実施。各関係機関の職員八十三人が参加し、県南勢家畜保健衛生所の指導で、防疫措置を学んだほか、防護服の着脱方法や、鶏を使った模擬の殺処分、車両の消毒など実践的な訓練にも取り組んだ。

訓練では、防護服を着用する際には手袋や長靴との間にすき間をつくらないよう、ガムテープを使って固定することや、鶏を扱う場合は片羽や面脚をしっかりと持つことなどを指導。殺処分の模擬訓練では、実際に防護服に着替えた三人が鶏を捕まえ、炭酸ガスが入ったと想定されるバケツに放り込んだ。

県農水商工部農産物安全室によると、鳥インフルエンザに関する訓練

や研修は、十二月中旬までに県内七地域で実施するという。